

県小中学教研会報

発行 石川県小中学校教育研究会
金沢市尾山町10番5号
石川県文教会館内
電話(076)262-4916

編集 石川県小中学校教育研究会
広報部

印刷 株式会社 山 越



第6回研究大会 郡市町教育研究会協議会（県地場産業振興センター）



石川県小中学校教育研究会

副会長 林 良彦

今年度七年目をむかえた石川県小中学校教育研究会の設立目的は「授業研究文化の継承や研究会のネットワークを県内全域に広げ本県小中学校の教育の充実に貢献することです。本会は、十六の各郡市研究会と二十四の教科等研究会の団体で構成され、運営を担当する事務局には、各構成団体より役員が選出されています。県内研究団体の大会開催地調整や、例年八月の研究大会の開催も重要な役割です。

子どもたちに「確かで豊かな学力」を身につけさせるため、本県の教職員は、様々な研究会に所属し自主的に指導力や実践力の向上を目指し授業研究や情報交換等の教育研究活動が続けてきています。今年度の第六回研究大会のテーマは、設立以来掲げている「石川の授業研究文化の継承と発展」です。県内の小中学校にしっかりと存在する「授業研究文化」は、広い視野と深い見識に基づき、日々継承して取り組み続けてきた研究と実践の結晶です。今に続く時において、子どもたちの学びに寄り添い、より価値ある方向へと誘う深い見識を持つ教職員による日々の「授業」への取組が、授業研究文化を継承・発展させてきたのです。

目指すは、子どもたちが学習の主体者となり、学習課題の解決に向けて一人一人が自ら取り組み姿が見られる授業です。教科等の専門性を生かした授業であり、子どもたちの思考力・判断力を高め、豊かで確かな表現力を育む授業であり、指導案に主張があり、かつ研究実践の具体化として提案性のある授業です。そのためには、一人一人のよさや可能性を見抜く力、教科等に関する高い指導力、自己研鑽に励む力を身につける必要があります。その土台となっているのが、本県で継承されてきた授業研究文化です。

教師は、経験年数が何年であろうと、子どもたちの前では、一授業者です。教師は、授業で勝負します。言い換えれば「授業を真ん中」にします。毎日の実践に埋没することなく、実践から学ぶ姿勢を持ち、謙虚にいていねいに、授業を「反省」する授業実践者たちにより、本県の授業研究文化は継承され、発展してきたのです。

これからも本会は、各地区の研究団体が具体的な子どもたちの姿をもとに「授業を真ん中」につつ石川県の授業研究文化が発展していくよう「場」を提供していきたいと思えます。

〈研究会紹介〉

野々市市小中学校教育研究会

本研究会は会員相互の研究・実践活動を通して、野々市市の小中学校の教育の振興・発展を図ることを目的とし、小学校五校・中学校二校、総勢二四七名で組織されています。

部会は十八部会（教科部会十部会・特別部会四）あり、各学校の校長・教頭が部長を務めています。

○教科部会（国語、算数・数学、社会、理科、外国語、音楽、図工・美術、家庭・技術、体育、道徳・人権、特活、総合・生活、特別支援、情報視聴覚）

○特別部会（学校図書、学校事務、学校保健、学校給食）

部会の開催は年間四〜六回と差はありますが、いずれの教科部会でも研究授業を小中合同で行っています。授業整理会では、小学校教員は教育方法、中学校教員は教科内容についての意見を語る傾向があり、それぞれの良いところを生かした授業整理会が行われるところが本会の特徴です。



中学校生徒会の小学校訪問

幼保小中交流会も実施されます。「野々市つ子を育てる市民会議」・「野々市市生徒指導連絡協議会」と連携し、年間三回幼保小中交流部会を実施しています。一回目は六月に中学校での公開授業を行い、授業後には中一と旧小六の担任で、不登校傾向児童や配慮の必要な児童の状況について詳しく情報交換を行います。二回目は七月に中学校区に分かれて幼稚園・保育園での公開保育と分散会を行います。

幼稚園・保育園での教育方針や遊びの意味が語られ、幼保での子どもの育ちを知ることができ、三回目は十一月に小学校の授業を公開し、その後は、生徒指導・学習指導の分科会に分かれて協議を行います。その中で小学校や幼保で大事にしたこと、中学校でも引き継いで大事にしてほしいことが忌憚なく話し合われます。また小中連携として、十一月には中学校生徒会役員が小学校へ訪問し、ビデオ等を見せながら、運動会や部活、学校生活の様子を説明します。

夏季全体研修会では講師を招聘して講演会を行っています。数年前は不登校対策として東京学芸大学 小林正幸教授、ここ数年は新学習指導要領への対応として金沢工業大学 白木みどり教授、金沢大学 折川司教授にご講演を頂いています。

その他、野々市市小学校音楽会、小中学校図工・美術展、書初め展も行われます。運営主体はそれぞれ音楽部会、美術・図工部会、国語部会となります。特に図工・美術展、書初め展は、新しくなった市立図書館「カレード」で実施され、多くの市民の方に観て頂いています。働き方改革、新指導要領本格実施に係る授業時数増により今後、研究会の実施方法についても検討が必要となります。しかし、コンパクトな野々市市のよさを活かし、九周年で野々市つ子を育てる精神を大切に研究に取り組んで参りたいと思います。（文責 野々市市立菅原小学校 中野 淳子）

白山市学校教育研究会

白山市では、白山市教育委員会の基本理念「ふるさと白山の未来を拓くひとを育てる」地域とともに「」を基つき学校教育基本方針「感性を豊かにする教育」を推進しています。

本研究会は、白山市教育委員会のご指導のもとに、学校教育に関する研究を行い、白山市の教育の振興を図ることを目的として、市内の小中学校をもって組織されています。小学校十九校、中学校九校、約六百六十名の会員で構成され、授業力向上に向けて取り組んでいます。研修会は二十一部会に別れ、

年三回の研修会を実施しています。研究授業や指導案検討・実践交流・視察（見学）・教材研究・講義・実技講習を通じて研修を深めています。各部で行う年間一〜二回の研究授業には指導主事等の助言者を招聘し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を進めています。各部の活動内容は年二回の会報と年度末の紀要の冊子にまとめられ各校で共有されます。夏季全体研修会は、今年度は文部科学省学校業務改善アドバイザー・中教審「学校における働き方改革特別部会」委員の妹尾昌俊氏に、「本気で進める学校の働き方改革」なぜ必要か、何を行うかについてご講演いただきました。



白山市では、教育研究会の業務効率化のために、市内の学校間共有フォルダを活用し、作業の効率化、情報共有を進めています。次年度は、開催回数削減や部会再編を進め、子どもと向き合う時間を確保するための働き方改革も進めていきたいと思っています。（文責 白山市立東明小学校 紺村由紀子）

石川県数学教育研究会

本研究会は、県内各郡市で行われていた数学教育研究会を石川県小中学校教育研究会（学教研）の設立を機に県の研究会として一本化していくことを目指して設立されたものです。他教科等の研究会とは違い県レベルでの交流の歴史がなく、各郡市でそれぞれ研究会や授業公開等を行っていました。この学教研が設立されて七年目を迎えた現在、残念ではありますが実態として県レベルでの研究実践交流はなされていません。今後、何らかの形で交流を行える状態にしていきたいと模索中です。

一方で、本研究会としての大きな役割が一つあります。これまでは各郡市の数学教育研究会が北陸四県数学教育研究大会に参加しており小中高等学校と系統的な学びの研究を行っていました。この北四数学研究会の中学校でのまとめ役として本研究会が関わってきています。石川県で実施される準備委員会の母体としての役割や四県連絡会に代表として参加しています。今年度は小松市で第六十七回大会が行われました。この歴史ある北四数学大会の



概要を簡単に説明します。

北四数学大会は石川・新潟・福井・富山の順番で開催が割り当てられています。十月の中旬頃に全体会と校種ごとの分科会が行われます。午前の全体会は開会式・記念講演、午後は小中等学校の公開授業と分科会が行われます。中学校の分科会は数と式・関数・図形・資料の活用の四領域で各県から三本の口頭発表があり計十二本の研究協議が行われます。また、各領域で一本は文書発表となっています。今年度の大会について紹介します。

十月十九日(金)に全体会是小松市民センターで行われ、記念講演は帝京大学教授の清水静海先生に「数学的に考える資質・能力の育成」これまでとこれから」という演題で講演していただきました。型、技法にこだわってはい力(資質・能力)はつかないことや未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力は数学的に考える力と相性が良いなど具体的な事例を挙げながらの講演で、参加者は多くを学ぶことができました。午後

の中学校部会は小松市立丸内中学校で行われ、公開授業は参観者が多いため体育



館で行われました。一年の図形の移動についてグループ活動を

通して元の図形をどのように移動したかの説明を聞いて、移動した図形を考え書く授業でした。班で協力しながら一つのものを完成させることを通じて達成感を持たせていました。分科会では鶴来・城南・七尾東部中学校が口頭発表を、芦城中学校は文書発表を行い熱心な研究協議が行われていました。各実践について今後の授業研究に大いに生かされていくと感じました。本研究会の今後の方向性については前述したとおりですが北四数学大会をさらに充実したものにしていける役割も大切であると考えています。

(文責 金沢市立高尾台中学校 荒井 浩志)

石川県特別活動研究会

本研究会は、比較的歴史の浅い研究会で、平成二十四年度に今の形でスタートし、今年で七年目を迎えた研究会です。

県の研究大会は、例年二月上旬に「冬の大会」として開催されてきましたが、平成二十九年小松大会は、昨冬二月の記録的大雪のため、「大会」としては開催できませんでした。

そこで、今年度は、例年より少し早く、十二月に加賀市で「冬の大会」を開催いたしました。小松大会では、中学校を会場に

して、そこ

で小中両方の公開授業を行ないましたが、この方法を真似て、加賀



市立山代中学校を会場に、同中学校三つのクラスと、加賀市立作見小学校の四年生、五年生の二つのクラス、併せて五学級の公開授業がありました。

特別活動は、今年度より小中学校ともに新学習指導要領に基づいて、

- ・「人間関係形成」(多様な人々と共に生きる)
- ・「社会参画」(社会の一員として生きる)
- ・「自己実現」(自分らしく生きる)

の三つの視点を重視した教育課程が実施されています。(まさに、生きる力そのものです。)

今回公開した五つの授業は、学級活動(1)のねらいに即した、よりよい学級集団づくりのための話し合い活動でした。学校は違うのですが、どの学級も「話す・聞く」ということが習慣として身につけており、小学生では「聞く姿勢の良さ」が感じられました。また中学三年生の授業では、喧々諤々と熱のこもった論議がなされました。建設的な話し合いをするためには、ペー

必要ですが、三年生のクラスには、それが確かにありました。

授業後の全体会では、杉田洋先生(國學院大学教授)のご講演を頂きましたが、その中で公開授業に触れ、話し合いの質の高さを評価しながらも、最終的に求められるものが「合意形成」なのか、個人の「意思決定」なのか、それを捉え違っていると、特別活動のねらいから外れてしまうとの指摘も頂きました。

杉田先生のご講演は、「今こそ、求められる特別活動の教育力―学びに向かう集団づくり―」を演題として掲げ、特別活動を中軸に据えた教育活動の必要性についての、熱い思いと力が伝わってくるものでした。



しかし、依然として本県においては、「特別活動」に対する認識は、決して高くはありません。来年度は、金沢市で県の研究大会を開催いたします。「特別活動」の実践をリードしていく、その中核となる教員の育成と、研究会の発展的な継続を目指して、石川県特別活動研究会は、歩みを続けなければなりません。

(文責 加賀市立山中小学校 杉本 稔)

平成三十年役員

- | | | |
|-------|----------------|------------|
| 会長 | 中 林 | 克之(金沢・清泉中) |
| 副会長 | 林 良彦(金沢・四十万小) | |
| 総務部長 | 坂東 隆(能美・湯野小) | |
| 研究部長 | 遠水 健一(金沢・三谷小) | |
| 研究副部長 | 的場 茂樹(金沢・押野小) | |
| 調整部長 | 能波 裕司(金沢・鳴和中) | |
| 調整副部長 | 櫻井ゆかり(白山・美川小) | |
| 広報部長 | 中川 隆博(金沢・泉野小) | |
| 広報副部長 | 杉本 稔(加賀・山中小) | |
| 会計部長 | 小浦 孝行(輪島・町野小) | |
| 会計副部長 | 竹内 弘司(羽咋・粟ノ保小) | |
| 会計監査 | 坂本由紀子(かほく・七塚小) | |
| | 舟本 克之(珠洲・正院小) | |
| | 川村 聡子(加賀・金明小) | |

平成三十年度会務報告

- | | |
|------------|------------------|
| 四月一日(日) | 三役会 |
| 四月十三日(金) | 第一回理事研修会 |
| 五月十一日(金) | 第一回幹事研修会 |
| 五月二十九日(火) | 第二回理事研修会 |
| 六月六日(水) | 第二回幹事研修会 |
| 六月十五日(金) | 第一回代議員研修会 |
| 七月二十三日(月) | 第三回理事研修会 |
| 七月二十三日(月) | 第三回幹事研修会 |
| 八月八日(水) | 小中学校教育研究会第六回研究大会 |
| 九月二十日(木) | 第四回理事研修会 |
| 十二月十一日(火) | 北陸三県中教研連絡協議会 |
| 十二月二十六日(水) | 第五回理事研修会 |
| 二月六日(水) | 第二回代議員研修会 |
| 二月十四日(木) | 第六回理事研修会 |

平成三十一年度県内開催予定の研究発表会

東海北陸地区大会

- ◆東海北陸地区中学校技術・家庭科研究大会
- ・地場産業振興センター(一日目)
- ・金沢市立城南中学校
- ・金沢市立清泉中学校
- ・白山市立松任中学校
- ・能美市立寺井中学校
- ・十月十七日(木)・十八日(金)

中部地区大会

- ◆全小徳徳教育研究大会中部大会
- ・小松市立今江小学校
- ・十一月二十二日(金)

北越地区大会

- ◆北越地区公立小中学校事務研究会研究大会
- ・金沢市
- ・八月二十二日(木)・二十三日(金)

県大会

- ◆県国語教育研究会
- ・小松市
- ・十月中旬～下旬(予定)
- ◆石川県語の会
- ・金沢市
- ・十二月の第二土曜日(十四日)
- ◆県書写教育研究会
- ・白山市
- ・十一月(予定)
- ◆県社会科教育研究会
- ・羽咋郡市
- ・十一月十四日(木)
- ◆県小学校社会科教育研究会
- ・開催場所未定

- ・十二月七日(土)(予定)

- ◆県算数教育研究会
- ・金沢市立小坂小学校
- ・十月十一日(金)

- ◆県中学校数学教育研究会
- ・開催予定なし

- ◆県理科教育研究協議会
- ・石川県立津幡高等学校
- ・宇ノ気中学校
- ・宇ノ気小学校
- ・十月十六日(木)

- ◆県音楽教育研究会
- ・白山市クレイン
- ・十一月二十二日(金)

- ◆県図工・美術教育研究会
- ・金沢市
- ・十一月二十二日(金)

- ◆県学校体育研究会
- ・金沢市
- ・十一月二十二日(金)

- ◆県小学校体育研究会
- ・十一月十二日(火)または十三日(水)
- ・金沢市
- ・十一月二十六日(木)(予定)

- ◆県中学校英語教育研究会
- ・白山市
- ・開催日未定

- ◆県小学校生活科・総合的な学習教育研究協議会
- ・申小学校
- ・十月二十九日(火)

- ◆県特別活動教育研究会
- ・金沢市
- ・開催日未定

- ◆県小中学校視聴覚教育研究協議会
- ・鳳来保育所
- ・河井小学校
- ・鳳至小学校
- ・輪島中学校
- ・石川県立輪島高等学校
- ・十一月十四日(木)

- ◆県学校図書協議会
- ・宝立小学校

- ◆特別支援教育研究会
- ・能美郡・能美市
- ・十一月二十日(水)

- ◆特別支援学級設置学校長協会
- ・開催予定なし

- ◆県養護教育研究会
- ・地場産業振興センター
- ・七月三十日(火)・三十一日(水)

- ◆特別支援教育研究会
- ・能美郡・能美市
- ・十一月二十日(水)

- ◆特別支援学級設置学校長協会
- ・開催予定なし

- ◆県養護教育研究会
- ・地場産業振興センター
- ・七月三十日(火)・三十一日(水)

- ◆特別支援教育研究会
- ・能美郡・能美市
- ・十一月二十日(水)

- ◆特別支援学級設置学校長協会
- ・開催予定なし

- ◆県養護教育研究会
- ・地場産業振興センター
- ・七月三十日(火)・三十一日(水)

- ◆特別支援教育研究会
- ・能美郡・能美市
- ・十一月二十日(水)

- ◆特別支援学級設置学校長協会
- ・開催予定なし

- ◆県養護教育研究会
- ・地場産業振興センター
- ・七月三十日(火)・三十一日(水)

- ◆特別支援教育研究会
- ・能美郡・能美市
- ・十一月二十日(水)

- ◆特別支援学級設置学校長協会
- ・開催予定なし

石川県小中学校教育研究大会 第7回研究大会

- 期日 2019年8月9日(金)
- 会場 県地場産業振興センター
- 日程と内容
 - 午前(10時～)
 - ・郡市町教育研究会協議会
 - 各郡市町教育研究会代表による今年度の活動方針の協議、情報交換等
 - 午後(13時～)
 - ・開会式
 - ・記念講演 講師 明治大学文学部教授 諸富 祥彦氏
演題 「未定」
 - ・分科会
 - ①石川県書写教育研究会
基礎・基本を大切にし、意欲的に考えて書く子を育てる書写指導を目指す
 - ②石川県小学校社会科教育研究会
子供自らが学びに向かい、公民的資質の基礎を養う社会科教育
 - ③金沢市小学校教育研究会 算数部会
量感を大切にした「速さ」の指導 ～「速さ」の本質の理解を目指して～
 - ④金沢市小学校教育研究会 理科部会
グローバル社会を生き抜く人間を育てる理科教育
～理科の見方・考え方を働かせて自然を追求する子をめざして～
 - ⑤石川県音楽教育研究会 発声教育研究部会
感動ある歌声をつくり出す子どもを目指して
 - ⑥石川県社会科教育研究会 (坂井宏行教諭)
石川県の繊維産業からみる北陸の産業の特色
 - ⑦石川県中学校数学教育研究会 (岡島悟教諭)
本校における数学科の授業工夫
～基礎基本の定着とそれを活用できる生徒の育成を目指して～
 - ⑧金森兼子教諭 (金沢市立夕日寺小学校教諭)
子どもと創る生活科 ～かかわり合う中から気付く子をめざして～

※会場・期日は現時点の予定です。変更になることもありま
す。変更になることもありま
すので、ご了承ください。

本号では、各郡市町の教育研究会や各教科等研究会の活動状況や取組の様子を四つの団体から報告していただきました。どの研究団体も、本研究会が設立以来掲げてきたテーマ「石川の授業研究文化の継承と発展」に真摯に取り組んでいることがうかがえる内容です。ぜひ他の研究団体も参考にしてください。と思います。

さて、各学校現場では、教職員が多忙化改善に向けた取組を進めていると思います。しかし、教材研究・授業の準備等子供たちと向き合う時間を十分に確保することは私たち教職員の使命です。そのためにも各研究団体の質の向上と、会員の皆様の指導力向上が今まで以上に重要になってくると思います。最後に、第十四号発刊にあたり、たくさんの皆様のご協力やご支援をいただき、誠にありがとうございました。

(広報部 小浦 孝行)

広報部	部長 小浦 孝行(輪島・町野小)
	副部長 竹内 弘司(羽咋・粟ノ保小)
	香林 直晴(津幡・太白台)
	森田 隆久(金沢・森本中)
	直江 賢一(白山・北星中)
	寺西 千洋(かほく・高松中)